

民生委員の現状と課題について

(質問) 民生委員の高齢化・担い手不足は深刻な状況であり、地域によっては活動の継続に支障が出ている。働きながらでも活動できる体制づくりや、若い世代の参加を促す施策として、四日市市が四日市看護医療大学と提携し学生協力員制度を導入している。民生委員活動を支援する取り組みとして、本市も鈴鹿医療科学大学に対し制度創設の提案を行ってはどうか。

(答弁) 今年度キャリア教育実習に参加した学生にサロン活動の補助をしていただいた
が今後は他の取り組みも検討していく。


その他の質問 ○市営住宅の家賃滞納

建設事業の現状について

(質問) 物価高騰による鈴鹿市公共建築物個別施設計画への影響を、特に本年度事業化の白子中学校長寿命化事業の進捗を含めて尋ねる。

(答弁) 今年度予定していた25件の改修工事のうち8件を発注または発注予定、残り17件は次年度以降へ先送り。白子中学校の事業については、国庫支出金の交付が決定され次第進められるよう令和8年度中の工事着手に向けて準備する。残る案件についても着手できるよう努める。

その他の質問 ○鈴鹿市の近代史への取り組み ○選挙の取り組み ○鈴鹿市のまちづくり



ひとり親家庭等の支援について

(質問) 頼れる人が少なく孤立しがちなひとり親家庭が、相互援助活動であるファミリーサポートセンター事業を十分に活用できるよう、利用料の助成率と支援会員の補助率を上げること。また、親が病気などの場合に食事・掃除洗濯・買物・育児などを支援する「ひとり親家庭等日常生活支援事業」を導入してはどうか。

(答弁) ファミリーサポート事業の助成制度などの周知を強化し「ひとり親家庭等日常生活支援事業」導入は他市町の動向を注視する。


その他の質問 ○学校給食無償化
○高齢者等の投票所への移動支援

太陽光発電設備の設置について

(質問) 住宅地の隣にソーラーパネルを造る問題。県のガイドラインは規模50kw以上が対象であり、案件が小規模だからと認められ、それが広まると、地域の環境や景観に悪影響を及ぼすと心配される。開発と環境保護の在り方に、住民の声を反映したルール作りを進められたい。

(答弁) 各地で問題となっていて、市として関係部署が連携して事業者への指導を行っている。三重県もガイドラインだけでなく規制ができる条例の制定を検討しているところである。

その他の質問 ○農業支援 ○学校生活に必要な施設と配慮



救急医療体制について

(質問) 救急搬送が令和5年に1万人を超える、令和6年の救急搬送も1万417人となった。救急患者は年々増加傾向にある。二次救急医療機関の補助金の拡充を図るべきだ。また、市民が安心して安全な医療が受診できるよう施設設備購入費の補助金拡充について聞く。

(答弁) 高齢者人口の増加や二次救急医療機関への救急搬送数の増加など負担増を踏まえて制度の見直しを行う。設備購入への支援は、市民の皆様に高度な医療が提供され、医療人材の確保も図られるよう支援する。


その他の質問 ○シティプロモーション

命や健康を守る対策について

(質問) 帯状疱疹ワクチン接種は、令和7年4月からの定期接種化により、同年3月まで行っていた任意接種費用助成制度の対象者であった50歳以上の方が対象から外れたが、この復活を検討すべきと考え、見解を問う。

(答弁) 国では、原則生涯に1回の接種であり、罹患が最も多い70歳頃に十分なワクチン効果が発揮できるよう、定期接種の対象年齢を65歳と定められている。65歳で漏れることなく接種を受けてもらうことが重要であり、周知啓発を徹底していく。

その他の質問 ○暮らしを守る対策

